

The Road 町田人 寄り合い—The YORIAI— ワクワクがあふれるまちへ

地域、企業、行政といった異なる背景をもった方々が集い、つながりを築き、共に行動を起こそうと対話する場。そこは多様性の中からこそ生まれるアイデアに満ちている。2022年、さながら現代版「寄り合い」ともいえるべき対話セッションを市内各地で開催。そこに参加したメンバーで、「寄り合い」を開いた。

一般財団法人
町田市地域活動サポートオフィス

杉山 久美子

トヨタモビリティ東京株式会社

鹿島 英紀

特定非営利活動法人 アソビノマド

鰐渕 遊太

玉川学園・南大谷地区協議会

服部 知行

地域、企業、行政が一体となって取り組むまちづくりプロジェクト「まちだをつなげる30人」（以下「まちだ30」）に参加し続けているトヨタモビリティ東京株式会社は地域でどんな活動をしていますか？

鹿島：都内の5社が1つになり、ちょうど会社としても地域の方にどのような貢献ができるか模索していたところだったんですね。今は昔と違い、事業者も地域と一緒に地域課題の解決など新たな価値を創る気持ちで活動していますから、車の販売以外にカーシェアや配送サービスなどを行っています。

「まちだ30」に参加してみてどうでしたか？

鹿島：地域や行政の方とつながりを作れたことが大変貴重でした。「まちだ30」の中で取り組んだプロジェクト以外にも、水素車両MIRAIを使った子ども向け燃料電池教室を実施したり、災害時の給電車貸与協定を結んだりすることができました。

杉山：私も2021年度の「まちだ30」に参加したのですが、その時に立ち上げたプロジェクト「まちだテントサウナキャラバン」の活動は今も続いています。サウナを通して地域とつながりの薄い働き盛りの男性が地域に関わるきっかけを作り、集うことによりつながり作りをしていこうと、社会課題を楽しく解決すべく活動しています。

鰐渕：楽しむって重要ですね。私は、学校には行っているけれども学校が苦手な子や、不登校を選択している子たちをサポートするNPOを運営しています。そこでは授業をするのではなく、子どもの「やってみたい!」を実現するお手伝いに徹するのですが、子どもにとって何より一番大事なのは"人生楽しんでいる大人"と出会うことなんです。ああいう人になりたいというロールモデルになりますから。

杉山：私は職住近接を目指して、それまでしていた企業の広報の仕事から現在の地域をつなぐ仕事に転職しました。先ほどのテントサウナキャラバンの仲間と家族ぐるみでお付き合いするなど、仕事とプライベートがシームレスになっていく毎日が心地よいです。



「まちだ30」から生まれたプロジェクト「まちだテントサウナキャラバン」のテントサウナ。